平成13年３月13日第三種郵便物許可　2005年10月25日発行　年４回（１、４、７、10月の25日発行）
Newsletter

THE BASEBALL MUSEUM SINCE 1959
Vol.15 / No.3

Induction Ceremony（殿堂入り表彰式）

事務局長　小林二三男

前号で７月22日㈮に行われた日本の「野球殿堂入り表彰式」を紹介しました。今回は１週間後に行われたアメリカの「野球殿堂入り表彰式」を紹介します。

ニューヨーク・マンハッタンからアムトラックでハドソン川に沿って北上し州都オルバニーへ、そこから車に乗り継いで西へ向かい合計約４時間、直接車を飛ばしても５時間はかかる小さな田舎町クーパースタウン。南北16kmの細長いオテサガ湖のほとりに静かで風光明媚な避暑地がある。500m程のメインストリートは、飲食店のほかは野球博物館をはじめ野球関係の建物や土産物店ばかりという正に野球漬けの町である。人口2,200人の町が「Induction Ceremony」（殿堂入り表彰式）のあるこの１週間は25,000人に膨れあがり、表彰式一色になる。

今年は７月31日㈰に表彰式が行われた。会場は町のはずれのクラークスポーツセンターというところで体育館と広大な野外広場を有している。広場の一角に大きなテントでステージを作り、その前に招待客用として2,000の椅子を用意し、その周りの芝生に一般のファンが座って表彰式を見る形であった。午後１時30分から始まったこの日は、30度を超す炎天下で日陰もないため、招待客にはのべつペットボトルの水を配り歩く気配りを見せていた。

式典は、招待された殿堂入りOB48名が映像で紹介されながら１人１人盛大な拍手を受けて登場、最後に今年の表彰者のボッグスとサンドバーグが登場すると、会場の全員がスタンディングオーベイションで拍手が鳴り止まないほどの大歓迎で始まった。

牧師のお祈りの後、アメリカ国歌のトランペット演奏、カナダ国歌をゲーリー・カーターが歌い、続いて、昨年球界関係者で亡くなった方の名前が会場の大画面に流された。放送記者賞・新聞記者賞の表彰の後、殿堂入りの表彰である。

表彰式会場（写真提供 The National Baseball Hall of Fame and Museum, Inc.）

表彰者の現役時代の勇姿がビデオで紹介された後、セリグMLBコミッショナーが顕彰文を読み上げ、野球博物館よりプラークが授与された。

ボッグスは実働18年、通算3,010安打をマーク、首位打者5回、オールスターは12年連続出場しており、資格初年度での殿堂入りを果たした。

ボッグスは13分間のスピーチで友人や家族へ感謝の気持ちをくりかえし伝えていた。特に1986年に母親を亡くしているので、その後の父親に対して非常に感謝の念が強く、"Daddy, I wouldn't be up here without you" と涙ぐむ一幕もあった。

表彰式のようす

サンドバーグは実働16年、通算2,386安打と二塁手として抜群の守備率.989でMVP1回、ゴールドグラブ9年連続受賞、オールスター10年連続出場している。

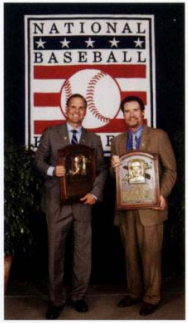
サンドバーグのスピーチは、24分間とやや長めながら、野球への関わりから現役時代の監督、コーチ、同僚に対する感謝の気持ちが強く感じられ、そして家族に対する深い愛情が感じられるものだった。

表彰者2人のスピーチをもって2時間40分に亘る表彰式は終了したが、現在生存している殿堂入りOB62名の内、48名ものHall of Famerがクーパースタウンに戻ってきて、新しく殿堂入りした2人を温かく見守っていたこと。それに、殿堂入りした人を祝福するために、28,000人ものファンがNYから遠く離れたこの小さな町を訪れるというのも驚きであり感動ものであった。

2005年アメリカの野球殿堂にはボッグスとサンドバーグが入り、殿堂入りは260人となった。

Wade Boggs（ウエイド・ボッグス）1958年生　47歳
'82～'92　　レッドソックス
'93～'97　　ヤンキース
'98～'99　　デビルレイズ
実働18年　2,440試合　9,180打数　3,010安打　打率　.328
1,014打点　118本塁打
首位打者5回（'83,'85～'88）
オールスター12年連続出場（'85～'96）

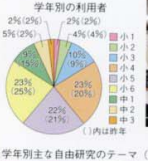
Ryne Sandberg（ライン・サンドバーグ）1959年生　46歳
'81　　フィーリーズ
'82～'97　　カブス
実働16年　2,164試合　8,385打数　2,386安打　打率　.285
1,061打点　282本塁打
MVP1回（'84）
ゴールドグラブ9年連続受賞（'83～'91）
オールスター10年連続出場（'84～'93）



（左）サンドバーグ　（右）ボッグス

（写真提供 The National Baseball Hall of Fame and Museum, Inc.）

夏休みイベントのご報告



図書室のようす

学年別主な自由研究のテーマ（テーマが複数の場合あり）

	野球の歴史	用　具	野球場	その他
小　1	0	0	1	1
小　2	0	0	3	2
小　3	2	6	5	0
小　4	7	16	8	0
小　5	8	16	2	1
小　6	12	13	3	4
中　1	4	6	0	0
中　2	2	5	3	0
中　3	2	0	0	0
合　計	37	62	24	8
全体からみた割合（　）内は昨年	33%(29%)	55%(38%)	21%(6%)	8%(28%)

◆「野球で自由研究！」

昨年まで行っていた「体験学習コーナー」と「夏休み自由研究相談デスク」を発展させ、小・中学生が野球をテーマに楽しく自由研究をできるような「野球で自由研究！」を行いました。「野球の歴史」、「野球用具」、「野球場」を自由研究のテーマとしてあげ、館内の展示や、図書室の本などを見て、いろいろなことを調べてみようというもので、「野球用具」についてはバットやグラブ、ボールの実物に触れるコーナーを設置しました。これらの用具はミズノ株式会社様、ナガセケンコー株式会社様から最新の情報と実物をご提供いただき、中でも硬式と軟式のボールは大人にも子供にも大変な人気となりました。

「軟式ボールの反発テスト」のコーナー

自由研究の調べものをした小・中学生の利用状況は小学校３年生、４年生、５年生、中学２年生が昨年に比べ１%～３%の増加となりました。また、今回は「野球の歴史」、「野球用具」、「野球場」を題材に提供したことで、ほとんどの小・中学生がこれらの中からテーマを選ぶ結果になりました。その中で「野球用具」を自由研究のテーマに選んだ小学校４年生の男の子から、自由研究の発表会で学年の代表に選ばれ、市内の作品展に出品されたという嬉しいお手紙をいただきました。来年も皆さんがもっと野球に興味を持ったり、楽しく自由研究ができるようなことを考えたいと思います。

◆「バット製作実演」

昨年に続き今年も「バット製作実演」を８月12日㈮、13日㈯の２日間開催しました。会場となった野球殿堂ホールにはたくさんのお客様がつめかけ、ミズノテクニクス渡邉氏のバット削りの実演を大変熱心に見学していました。また、小学生を対象に紙やすりかけ体験を行ったり、渡邉氏がバットについての質問に答えたり、木材の特徴やイチロー選手、松井秀喜選手のバットの解説を行うなど、夏休みのお客様により喜んでいただけたものになりました。

◆「夏休み親子グラブ製作教室」

８月14日㈰には、「夏休み親子グラブ製作教室 」を開催しました。

７月中旬に当館ホームページ上で参加者を募集し、抽選の結果10組20名の親子が参加しました。慣れない“グラブの紐通し”を、ミズノ㈱の増田氏、澤氏、エスポートミズノスタッフ２名に教わりながら、約２時間でグラブを完成させました。

最後は全員で“自分でつくった”グラブと記念写真を撮り「夏休み親子グラブ製作教室」は終了。皆さん、宝物のようにグラブをお持ち帰りになりました。

コラム／博覧・博楽 (16)

アメリカ野球殿堂の楽しさ(3)

松原　明（野球体育博物館維持会員）

アメリカの野球人には信じられないくらい、のめり込んでいる人がいる。大リーグのツインズ（ミネアポリス）、インディアンス（クリーブランド）を訪問したとき、発見した2つの個人経営博物館は、その収集の努力に頭が下がる思いがした。

ミネアポリスのメトロ・ドームも左翼側道路を隔ててグッズ・ショップに見つけたのは、レイ・クランプさん夫妻が運営する「殿堂兼博物館」。場内にはツインズの貴重な資料が天井まで釣り下げられ、足の踏み場もないほど。夫妻はツインズと、NFLバイキングスのグッズ販売をしながら、尋ねるファンに公開している。「ツインズがワシントンにあったころ、私は、裏方だった。オーナーのグリフィス氏に可愛がられ、オーナーから、様々な記念品を頂いた。その歴史をみなさんに公開した」と、自分で書いた本も見せ、ホームページもある、という。

クリーブランドでは、イヤーブックにあった紹介から、宝石店の「シサー」内部に「ヘリテジ・ミュジアム」を開いている、と知って尋ねた。店長兼オーナーのボブ・ジマーさんは「今は、このダウンタウン一帯の再開発事業に取り組み、クリーブランドに往年のにぎわいを取り戻したい」と、懸命に奔走中、だという。壁面いっぱいに飾られた黒人リーグ、女子野球、マイナー野球の展示はいずれも貴重な遺産ばかり。「私は所蔵するだけでない。欲しい、という人には譲る」と、値札が付いているのもユニークだ。

「今に立派な博物館も建てる。そのときは来て欲しい」と、意気盛んなのだ。さらに、ユニークな博物館は、競馬のダービーで有名なケンタッキー州ルイビルにある「バット博物館」。これはルイビル・バット社が公開している、バット製作のすべてが分かる、バットの歴史を展示した、全米唯一のバット博物館。正面入り口に立てかけた、天にそびえる巨大なバットが看板。すぐ分かる。ここには、歴代の使用選手の一覧に、日本人選手22人の名前を見つけた。それぞれ「日本プロ野球で、どのように使われたか」の案内文も添えられている。

セントルイス市のカージナルス・ブッシュ球場の目の前には、「カージナルス博物館」があるが、実は、ボウリング場との併設。間借りしているような感じがしないでもないが、カージナルスの深紅のユニホームが飾られる、立派な展示。チームの歴史は十分理解できる。

「ボウリングの歴史は古く、セントルイスは昔から盛んなので併設されました。正直に言って、カージナルスの殿堂だけでは尋ねる人も少ないので」という説明だったが。

「黒人リーグ博物館」は、モナークスのホームだったカンザス・シティのダウンタウンにある。展示のほか、場内はダイヤモンドの形をしたミニ・フィールドがある。ここに、黒人リーグの偉大なベスト・ナインが、ユニホーム姿で、投げ、打つ、走る、ポーズを取っている。ロイヤルズ観戦のときには、是非尋ねたい。

空港にも展示がある。サンフランスコ空港のUAゲートの柱に「ベイ・エリア殿堂」入りした野球人の額が掲げられ、ジョー・ディマジオ外野手もあった。ハワイ・ホノルル空港の国際線ゲート・コンコースに、元巨人、中日の選手、監督だった、与那嶺要氏の展示コーナー。搭乗前にじっくり観察して欲しい。

州、市の運営する博物館は立派な建物で、堂々たる博物館も少なくない。オレゴン（ポートランド市）、オクラホマ（ガスリー市）、バルボア・パーク（サンディエゴ市）、ミシガン（デトロイト市コボ・センター）、ジョージア（アラバマ州メイコン市）、ニューイングランド（ボストン・フリートセンター）など、時間を忘れるに違いない。どの地域も、みな、大切に守り、育てて行く姿に「アメリカ野球は素晴らしい」と、思うのである。

殿堂入りの人々を語る(9)

伯父“景浦　将”

景浦　隆男（景浦　将氏 甥）

1965年殿堂入り
景浦　将氏レリーフ

私は、伯父景浦将に会ったことがない。それもそのはず、昭和20年５月に戦死した伯父に昭和24年生まれの私が会えるわけがない。そんなわけで伯父のエピソードは父賢一（故人…将の実弟で元朝日軍）や松山商業の先輩から聞いたものがほとんどである。

伯父のイメージは、「大食漢、強肩・豪打」であるが、少年時代は顔も細く“アゴ”と呼ばれた時期もあり、“豪”のイメージとは程遠いものだった。

祖父音五郎（故人･･･将の実父）の実家（松山市下伊台町）近くに遠足に行った際、近隣の親戚に立ち寄るなど律儀な一面もあった。この性格が後々トラブルを引き起こすことにもなったが…。

大食いだったという話はよく耳にしたことがある。私も鯛焼き15個と焼きそば、或いは焼き鳥を50本は食べたことがあるが足元にも及ばない。

一方、酒の方は音五郎似で全くダメだった。酒席を賢一と同じくする時は、（酒は）賢一に任せ伯父は専ら食べていたと、酒好きの賢一はにこにこしながら話してくれた。

伯父は、音五郎が営んでいた製材業をすすんで手伝った。他の者では重くて担げないような材木を一人で軽々と担いだ。賢一は、なぜあんなに重いものを担げるのか不思議だったと言っていたが、この時にバランス感覚や力の配分等を知らず知らずのうちに会得していたのではないだろうか。

りんごを片手で潰すなど握力も強かったが、肩は更に強く右翼を守っていた際の三塁や本塁への矢のような送球は、誰も真似できなかったとか。

大学時代、帰省時には頻繁に母校の松山商業を訪れノックをした。この時の外野ノックが長距離打者へのヒントになったようだ。

道後グランドでの打撃練習では打球が外野後方の土手まで飛び、打球が重いうえに逃かったため、土にボールがめり込んで落ちてこなかったという話は多くの先輩からよく聞いたものだが、バッティング中にバックネット方向にファウルを打った際、そんなに近くにいなかったにもかかわらず、ボールとバットの摩擦でよく焦げる臭いがしたという。

プロ野球在籍時か否かは定かでないが、兄弟が一度だけ対戦したことがある。

その時は、賢一が投手で伯父が打者。賢一は「怖かった」と言っていたが、伯父の打球はあっという間に賢一の横を抜けていった。

戦前、伊予鉄道松山市駅近くにあった実家は戦災で焼失し、遺品の多くは灰になってしまったが、1937年秋の銀製バット（首位打者賞）は無事だった。小学校低学年の頃、そのバットでよく素振りをしていた私は、ある時、軽くではあるがそのバットで硬式のボールを打っていた所を賢一に見つかりひどく叱られたのを覚えている。（博物館に納められているバットに、少し凹んでいるところがあればその時の傷跡かもしれない。）

音五郎の実家があった松山市下伊台町には８名の戦没者が祭られ、その中に景浦将の墓（記念碑）があった。しかし、平成16年の再三の台風襲来により墓の後方斜面が崩れ、現在は景浦家の墓（松山市下伊台町の「西法寺」）に場所を移している。その際、通常の半分程度の小さい骨壷を開けてみたが、中に骨はなく石ころのようなものが入っていただけだった。

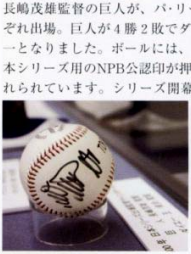
独立リーグ「四国アイランドリーグ」が今年４月に産声をあげた。
現在のプロ野球も草創期は東京六大学に人気・実力とも劣っていたというが、現在は隆盛を極めている。地域に密着した「四国アイランドリーグ」、今後が楽しみだ。

（編集部より：当館で所蔵の首位打者賞銀製バット（右の写真）は、バットの中心より少し下の部分が少しへこんでいるように見えます。このバットはプロ野球コーナーに展示しています。）

知ってほしいこんな資料(53)

「2000年日本シリーズ ONサインボール」

20世紀最後の1年となった2000年の日本シリーズは、セ・リーグから長嶋茂雄監督の巨人が、パ・リーグは王貞治監督の福岡ダイエーがそれぞれ出場。巨人が4勝2敗でダイエーをやぶり、6年ぶり19度目の日本一となりました。ボールには、"TOKYO DOME"とプリントされ、日本シリーズ用のNPB公認印が押されており、側面に両監督のサインが入れられています。シリーズ開幕前日の10月20日に当館に到着しました。



なお、長嶋監督が1988年、王監督が1994年に野球殿堂入りしており、殿堂入り監督同士の日本シリーズは、1965、66年の川上巨人－鶴岡南海に続く2組目となりました。

当館では現在、企画展「日本シリーズの記憶」を開催中です。今年で56回目を迎えた日本シリーズの各年度優勝チームの記念写真をはじめ、このサインボールやポスター、入場券、数々のドラマを生み出してきた監督・選手たちのユニホームなどを展示し、その歴史を紹介しています。

学芸員　関口　貴広

企画展　『日本シリーズの記憶』

会　期　～11月27日(日)

会　場　野球体育博物館多目的ホール

1985年の阪神対西武や、ON対決となった2000年巨人対ダイエーなど、当館所蔵のダイジェスト映像を上映中。また、図書室にてご希望の年度の映像がご覧いただけます。

こんにちは図書室です

図書室ではアマチュア野球の図書も多く所蔵しています。そこで今回は大学野球連盟史と大学野球部史をご紹介します。この他にも東京六大学野球の年度別の記録がわかる『野球年鑑』や各連盟のリーグ戦に関係する雑誌も所蔵していますので、あわせてご利用ください。

書　名	発行年
愛知大学野球　20周年記念号	(1969)
愛知大学野球連盟三十五年史	1984
青山学院大学野球部120年の歩み	2003
亜細亜大学野球部史	1996
小樽商科大学野球部史　第一巻	1983
学習院野球部百年史	1995
関西学院野球部百年史	1999
関西大学野球部史	2005
関西六大学野球四十年史	1972
六魂球心　創立20周年記念誌(関西六大学野球連盟)	2001
慶應義塾野球部史	1960
慶應義塾野球部史　上巻、下巻	1989
首都大学野球連盟二十年史	1985
首都大学野球連盟四十年史	2004
仙台大学硬式野球部史	1993
球心　大阪大学硬式野球部八十年史	1991
千葉県大学野球連盟五十周年記念誌	2002
なせばなる　筑波大学硬式野球部二十五周年記念誌	2000

書　名	発行年
21世紀の後輩たちへ　筑波大硬式野球部創部百十周年記念誌	2005
東京大学野球部史	1975
同志社大学野球部史　前編	1993
東都大学野球連盟七十年史	2001
東邦大学野球部三十五年誌　白球とわす語り	1986
一橋大学硬式野球部五十年史	1973
部史　北海道帝国大学野球部	1938
野球部誌　北大予科野球部	1949
創部八十周年記念　我が青春の法政大学野球部	1995
法政大学野球部90年史	2005
北海道大学野球部100年史　1901～2000	2001
明治大学野球部史　第一巻	1974
明治大学野球部史　第二巻	1986
立教大学野球部史	1981
早稲田大学野球部史	1925
早稲田大学野球部五十年史	1950
早稲田大学野球部百年史　上巻、下巻	2002

司書　山根　礼子

【2005年度の維持会員を募集しています】

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

会員の特典

- 当博物館発行「ニュースレター」(季刊)送付します。
- 何度でも無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- イベント情報などを優先的にご案内します。

＊新会員には上記の特典のほか「The Baseball Hall of Fame & Museum 2002 ～人で振り返る野球ハンドブック～」を進呈します。

会員の種類と会費

年会費（4月～翌年3月迄）

法人　1口　10万円　　個人　1口　1万円

ご入会月により、初年度年会費の割引があります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費（個人会員）	10,000円	5,000円	2,000円

ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の"入会申込書"に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、博物館までご連絡ください。

②"入会申込書"が届きましたら"維持会費のご請求書"をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ

博物館　業務部　高城・竹内

皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

【訃　報】

1959年の開館当初から、長年にわたり多大なご協力を賜りました神田順治氏が、8月13日に90歳で逝去されました。

神田氏は評議員（1963年～2000年）、特別表彰委員会委員（1988年～2000年）を務められ、1988年の移転の際には新博物館委員会委員としてもご尽力いただきました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

神田順治氏略歴

1915年（大正4）東京に生まれる

1939年（昭和14）東京帝国大学文学部教育学科卒業
東京大学野球部監督、日本プロ野球コミッショナー参与、野球規則委員会委員長、日本学生野球協会常務理事、野球体育博物館評議員、特別表彰委員会委員などを歴任。

著書　「野球殿堂物語」(現在販売中の「The Baseball Hall of Fame and Museum ～人で振り返る野球ハンドブック～」の基になった著書)
「野球の魅力」「野球蛾」「野球にはあらゆることがあてはまる」「子規とベースボール」「改訂最新野球規則」(訳)など多数。

● 博物館のご案内

場　所　東京ドーム21ゲート右

開館時間　3月1日～9月30日AM10時～PM6時
10月1日～2月末日AM10時～PM5時
(入館は閉館の30分前まで)

入館料　大　人　400円(300円)
小・中学生　200円(150円)
(　)は20名以上の団体

休館日　月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)
年末年始(12月29日～1月1日)

(11月・12月・1月の休館日)

11月	7日・14日・21日・28日
12月	5日・12日・19日・26日・29日～31日
1月	1日・16日・23日・30日

発売中

その①「公認球6社セット」!!

公認球製造メーカー6社のボールを2個ずつ1ダース入りにして、30セットの販売を開始しました。

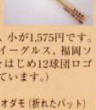
※公認球6社セットの仕様
- 6社の公認球が各2個ずつ1ダース、箱に入っています。
- 6社のメーカーは次の通りです。
サンアップ、ゼット、アシックス、松勘工業、郡須スポーツ、久保田

※なお、各社の箱に入れてお送りしますが、箱の指定はできません。

※当博物館の受付にて、6社セット19,200円(税込)で販売します。

※郵送希望の方は、「6社セット希望」を明記の上、代金20,000円(公認球代19,200円＋梱包送料＜全国一律＞800円)を現金書留で当博物館までご送付下さい。

その②「かっとばし」



折れたバットのリサイクル商品「かっとばし」を、当館で販売しています。

この著は野球殿堂(Hall of Fame)のロゴが入った博物館オリジナル商品です。

価格は1膳大(写真参照)・中が1,890円、小が1,575円です。(価格は税込み。また東北楽天ゴールデンイーグルス、福岡ソフトバンク、オリックス・バファローズをはじめ12球団ロゴマークスタンプの著(サイズは大のみ)も販売しています。)

オリジナル著の仕様(写真参照)
- 長さ：23.5cm　・重さ：15g　・材質：アオダモ(折れたバット)

●編集後記　博物館ではただいま来年の競技者表彰委員会、特別表彰委員会開催にむけての準備中です。1月10日火に殿堂入りの記者発表を予定していますので、ぜひご来館下さい。

Newsletter Vol.15 / No.3
2005年10月25日発行
編集・発行　財団法人 野球体育博物館
〒112－0004　東京都文京区後楽1－3－61
Tel 03 (3811) 3600　Fax 03 (3811) 5369
http://www.baseball-museum.or.jp/
定　価　100円

平成13年3月13日第三種郵便物許可　2005年10月25日発行　年4回（1、4、7、10月の25日発行）
Newsletter
THE BASEBALL MUSEUM SINCE 1959
Vol.15 / No.3
The Baseball Hall of Fame and Museum
財団法人 野球体育博物館

リレー随筆(22)

メジャーリーグ放送あれこれ

競技者表彰委員会幹事　　松本　一路（日本放送協会）

NHKでは、今年も300試合を超える大リーグの試合を、衛星・総合・BSハイビジョンで中継放送しました。1日に3試合の日もあって、日本のプロ野球よりも多い中継本数でした。

その中継放送の仕組みを簡単に説明しましょう。実際に現地アメリカの球場から中継するのは、オールスターゲームとワールドシリーズくらいで、あとの試合は東京からの放送です。全米各地の球場からライブで衛星回線で送られてくる映像に、東京のスタジオで一般家庭用と同じ画面を見ながら、解説者とアナウンサーで実況音声をつけ、ナマ放送で日本各地に放送されているのです。現地の球場で、NHKが単独で映像を作る中継もありますが、ほとんど地元局の作る映像をベースに、単独カメラを加えて日本人選手の映像を厚く見せる方式です。

打ち合わせなしの“国際映像”の中で、どういうコメントをつけ、いかに臨場感を出すか…。実況アナにとって思案するところです。

投球の時は、センターカメラでバッテリーサイズを撮っています。一塁走者がスタートを切ったかどうかは見えません。捕手の中腰になる動作を見て、「ランナー、スタート!!」と言います。打者が同時に打ったら、合わせて、「ヒットエンドラン!!」と即座にコメントをつけます。こう言い切るまでには経験とかなりの決断が必要です。

一死1・2塁で、ライト前ヒット。二塁走者が本塁へ突っ込む様子は映像で描写できますが、一塁ランナーはどうした？二塁ストップか、三塁進塁か？画面はなかなか映し出してくれません。アナウンサーは「1点先制！なお、ワンアウト、ランナー三塁（二塁）！チャンスが続きます!!」と、即座に決めのコメントを言いたい所ですが、それが出来ず、まどろっこしさを感じることが度々です。

大リーグ中継を担当していて、日本のプロ野球との違いを感じることがあります。

まず、情報をオープンにするという点です。ヤンキースのトーリ監督は、試合前必ず報道陣の取材に応じます。クローザーのリベラを疲労のため、今日は投げさせないと予告し、実際1点リードでもその日は登板しない事がありました。松井秀喜がその日二番を打つ理由など理路整然と試合前、説明します。勿論、これは選手本人に直接話をして、納得させた上で、報道陣に語られるものでしょう。日本では、処遇や起用法など本人たちが知らず、マスコミから伝えられるケースもあるようですが、大リーグではとても情報公開がオープン（勿論、公言できないものもあるでしょうが）です。妙な隠し立てはせず、ファンの疑問や知りたい事には誠実に答えるという、ファンを大切にする配慮がうかがえるように思います。

味方打者がデッドボールであきらかに狙われたなら、すかさず投手は相手打者にやり返します。大差がついた試合で無用の盗塁やバントをすると、プライドを傷つけられたとばかり、その選手の次の打席でははほぼまちがいなくビーンボールがやってきます。良し悪しは別にして、これらは暗黙の了解です。

力と力の対決のプレーの中に、相手を尊重し、自らのプライドを大事にする気持ちが常に根底にあるように思います。そして、強力な相手にもひるまず、真っ向勝負という強い意志を感じます。そのプレーぶりに、大リーグの魅力を感じるのです。